

# さぬきオーガニック

令和3年3月3日(水)

(香川県:高松市、綾川町、さぬき市)

発表者:長岡 輝幸(ながおか てるゆき)

# さぬきオーガニックの紹介

## ○ 協議会設立の背景、地域の課題

- 有機農業の耕作面積の増加を目標(香川県)
  - 新規就農者や転換者の増加のために、次世代に繋がる農業への取り組みが必要。
- 現状、有機農業の知識や技術を指導できる方が少ない。
  - 生産量が伸び悩む、販路開拓が上手くいかない
  - 離農する人も出ている。
    - ☆ 有機農業のより良い技術を習得
    - ☆ 生産・作付けを増やす

## ○ 構成員

生産者7名(うち、新規就農者 2人、有機JAS認証取得者1人)、  
実需者2名、市町村関係者1名

# 今年度の取組

## 【有機栽培技術力向上のための取組】

### ○講習会2回開催

- ・ 野菜を育てるための土作り
- ・ 使える土壌分析にするために・・・

## 【安定供給体制構築のための取組】

- ・ マーケットを知る



# 発表内容

- 緑肥主体の土作り
- 土壌分析から始まる土作り



# 緑肥主体の土作り(1/2)

## ○「育土」について

- ・ 緑肥を育て、土を育てる考え方
- ・ 土壌有機物をゆっくり分解
- ・ 余分な無機態窒素や栄養塩基類を有機化

→ 物理性の向上、

土壌微生物の活性化(生物性の向上)、

病害対策 などの効果

☆ 繰り返し続けることで、土壌循環の働きが増強

# 緑肥主体の土作り(2/2)

## ○目標

- より短期間でよりレベルの高い土づくり

→ 1年に1作を、年2作で2年間続ける

…育土の早さを促進できないか？



↑ 緑肥を入れたほ場

# 土壌分析から始まる土作り(1/3)

## ○土壌の化学性について

- ・ 土壌の化学性を調べる

→ 生育不良の原因を特定することに役立つ

## ○土壌分析の基礎となる「採土」について

- ・ 同じ畑で生育にバラツキがある？

→ 地点別に採土し、分けて分析する

※ 5点法で採土し、土壌分析を行うと・・・？

→ 実際の畑の土と異なる

→ 分析結果を実際の畑に活かしきれない

# 土壌分析から始まる土作り(2/3)

## ○分析値の考え方

- カルシウム60%、マグネシウム20%、カリウム10%
- 適正なバランスで畑に施された塩基類は  
→ バランスが変動しにくくなる  
☆ 資材投入コストの減少に繋がる



# 土壌分析から始まる土作り(3/3)

○分析結果を活かすための注意点

- CEC(塩基置換容量)を正しく知る
  - 分析値の高低ではなく、各分析値同士の関係性を理解
  - 「緩衝能」に注目して土壌改良資材の投入量を考える
- 土壌分析を使いこなすには分析の継続が必要



↑ 講習会の様子



↑ ほ場を見ながらの指導